



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年07月01日 第925号「週刊五十嵐レポート」

百聞は一見にしかず(その1)

6月26日(水)～29日(土)、日本経済新聞社主催「北京チャイナ・テック視察4日間」に参加。もともと私が昨年夏ごろから中国北京周辺のハイテク企業の視察はできないものかと企画を考えていた。今から約10年程前にベトナム視察ツアーを企画して、計4回プロデュースした。中国は簡単とは思わなかったが、人脈を構築すれば、できると思っていた。しかし、中国はなかなか繋がらない。見えない壁が立ちふさがっているように思えた。

日本経済新聞の広告で今回の視察を知った。「情報収集」「人脈作り」「時間」という理由で参加を決意。日本経済新聞社の情報力と人脈の太さに感服。「さすが」。一個人、一企業では会えないし、「場」作りができない。

最初に訪問したのが、清華大学(日本では東京大学のような位置付)。清華大学はスタートアップ企業の「ゆりかご」的存在。7つのステップがある。

第1. ドリームレッスン。スタートアップするための研修。第2. ラボ(実験室)。新しい事業の実験をする。第3. スタートアップ育成。第4. 企業キャンプ。マッチング。環境の提供。第5. ダイヤモンド計画。出資。1000万円～2000万円。第6. 上場支援。第7. グローバルネットワーク支援。

6年間で第1、第2ステップまで35,000人参加。第3まで行った人は1,400人。第4まで法人成りは580社。第5の出資を受けたのは200社。上場は21社。

学生のスタートアップ企業13社のプレゼンを聴いた(内半数近くが女性起業家)。事業計画は、日本人の視点では甘い。日本では潰してしまう恐れがある。しかし、中国ではアイデアや本人の気持ちを尊重している。とりあえずやらせてみる。そこから伸びるかどうかを見る。這い上がってきた企業だけに投資をし、上場支援をする。

企業を育てる環境があり、自由闊達さがある。国を挙げて起業家を応援している。未来を創るのは、20代、30代。それを応援しているのは今を作った40代、50代。中国から学ぶ点が多い。若い力を伸ばす。じゃまをしない。ある部分では大きく水を開けられた感はある。行かないと解らない。

ちよつと
気になる出来事

「北京チャイナテック」視察で日本語通訳として中国人女性2人が同行した。まだ20代。訪問する企業を事前に予習し、専門用語を入念にチェックしていた。ほとんど寝ていないという。仕事に対するひたむきさ、一所懸命さは感じ取れた。

1人の通訳者は、日本のアニメ「ワンピース」を見始めてから日本文化に触れ、日本語を学びたいと思ったそうだ。

もう1人の通訳者は既婚者。伴侶との出会いは、「ウイ・チャット」で知り合った。今時の人。主人に頼ることなく、自分の収入で生計を立てている。主人は人生のパートナーという位置付け。

今の共産党政権について聞いてみた。「共産党政権だったからこそ、今の中国の成長がある。やりがいのある仕事についている。大変幸せである」「日本に留学していたときに、中国のニュースがネガティブなものだけだったのにショックを受けた」「一党独裁だからこそスピードが早い。日本を見ていると遅遅として動かない。それではどんどん遅れる」。

会う中国人がみんないい顔している。幸せを感じる。



一口メモ
知識

「確信」と「信仰」の違い

「信仰」とは、教祖や言い伝えに説かれる「偉大なる力」にひれふすことを言います。

偉大なる力に、正直に、真面目に、素直に従うことです。

そうなると、信仰と引き換えに、

自分の自由を相手に預けてしまうことになります。

自分の自由を失うのですが、

弱い人にすれば、楽に生きられる道なのかもしれません。

仏教の「確信」は、「信仰」と違います。

「確信」にいたる道は、自ら真理を発見して、究極の自由を獲得することで完成するのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムツレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

